

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

別海町立野付小学校 打川校長



Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

管理職は、人生で一度チャレンジしてもいいかなと思います。

新たな学びや出会いがありますし、教員として人生観も変わります。苦労も大変なことも無駄になりません。必ずどこかに繋がっている経験値を得ることができるので、そのようなチャレンジも人生を豊かにすると思います。

根室管内も北海道全体でも女性管理職が少ない状況にありますが、多様性が求められる社会にあっては、いろんな視点の教職員や管理職がいることが強みになると思っています。その意味でも、女性管理職が増えて欲しいと思います。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

小学校教員をしていた時の私は、授業と学級経営が大好きで、ずっと学級担任をして授業をしていきたい思いが強くなりましたが、

- 次の時代の教師として成長していく多くの若い先生と出会ったこと
- 素晴らしい学校経営をされる校長先生から、管理職を目指さないかと声を掛けていただいたこと
- 最後の教え子になってもいいと思える子どもたちの担任をしたこと など

心境が変化する要因が重なり、それが管理職を志すきっかけとなりました。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子育てをしていた時の私は教師の仕事に夢中になりすぎて、自分の子どもには申し訳ないと思うことばかりです。けれど、限られた時間しかない中で、自分の中で大切にしていかなければならないものと仕事のバランスについては、様々な子育て経験談を伝えながら、協力できたらと思っています。

Q 管理職になるために必要だった支援は？

国の中央研修で全国の管理職、ミドルリーダーの方々に出会えたことも決心するきっかけになりました。

特に心に残っているのは、九州の女性の教頭先生の、

「あなたは退職する時に、どんなふうに退職したいの？カリスマ先生になり、退職したらその授業をする人はもういないというのがいいのか、それとも、自分と同じような考え方をもったり、同じような夢を追い続けたりしている後輩の先生がいる中で退職したいのか、どっちなの？」という言葉です。

当時の私は退職時のイメージがなかったので、強く心に響きました。

Q 管理職になって気づいたことは？

教頭になった時は「学校は総合力、チーム力」ということを実感しました。

校長になってからは「子ども、教職員、家庭、地域、行政の五者チームで、学校は可能性を見つけ成長することができること」に気づかされました。

その意味と楽しさは、今も感じています。学校の課題解決が、子ども、家庭、地域、教職員の人生、喜び、幸せ、成長に繋がっていることが、やりがいでもあり、責任でもあり、魅力でもあります。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！
是非御覧ください！

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

小学校一般教諭時代の私は、授業作りと学級経営が大好きで、ずっと学級担任をして授業をしていきたい思いが強かったのですが、平成23年(2011年)に、心境が変化する四つの要因が重なり、それが管理職を志すきっかけになりました。

一つ目は、採用同期で共に研修を担当してきた先生が、教員養成大学に転職し、授業実践力のある教員の養成に全力で取り組んでいたことです。そして、その研究室に、教員を志していた子どもが入学したことをきっかけに、教員を目指し高い志をもって一生懸命学ぶ多くの学生の姿を目の当たりにしたことです。

二つ目は、当時勤務していた学校で、切磋琢磨し授業や学級経営を高め合う、次の時代を担う多くの若い先生方に出会えたことです。

三つ目は、当時の校長先生の学校経営が素晴らしく、学校が成長していく楽しさを実感できたことと、その校長先生から管理職を目指す道へと声をかけていただき、学校経営を視点とした研修に派遣していただいたことです。

四つ目は、その時担任していた学級が、最後の教え子でもいいと思えるくらい、毎日いろんなことが起きるびっくり箱のような子どもたちで、「自分のキャリアを全部ぶつけても乗り越えるかな?」「でも、やり甲斐がとてあって、ここを転機にしてもいいのかな?」と思えたことです。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか?

それでも進路を迷っていた私を、教育局の方々と校長先生が、国の中央研修「学校組織マネジメント指導者養成研修」のメンバーに推薦してくださいました。この研修に参加し、素晴らしい実践をしている全国の管理職、指導主事、ミドルリーダーの先生方に出会いました。

研修は人生観が変わるような学びの深い内容でした。研修を受けた夜に、参加していた先生方といろんなことを語り合う中で、「私は今、管理職選考の受検を迷っています。管理職を目指す気持ちはありますが、ずっと授業者でいたい気持ちもあります。」と打ち明けたところ、いろんなアドバイスをいただきました。その研修からの帰り道、心が決まりました。

特に心に残っているのは、九州の女性の教頭先生の、「あなたは退職する時に、どんなふうに退職したいの?カリスマ先生になり、退職したらその授業をする人はもういないというのがいいのか、それとも、自分と同じような考え方もったり、同じような夢を追い続けたりしている後輩の先生がいる中で退職したいのか、どっちなの?」という言葉です。

当時の私は退職時のイメージがなかったので、強く心に響きました。

そして、その時の校長先生から、学校経営の視点などを教えていただいたことも支えになりました。

管理職を目指すにあたり、当時の勤務校の校長先生が様々な指導・助言をしてくださいました。素晴らしい学校経営をされる方でしたので、指導や助言を通して学校経営観や考え方に触れ、大切にすることに気づかせてもらった経験は、管理職になってからも私を支える財産になりました。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか?

教頭になるまでは、先生方を同僚と感じていましたが、教頭になった時、職員室がまるで自分の学級のように見え、先生方が自分の学級の子どものように、いろんな可能性を持っている人材に思えて、見える景色がこんなに変わるのかと驚きました。

(次ページへつづく)

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？(前ページからつづき)

また、教頭になった時は「学校は総合力、チーム力」ということを実感しました。校長になってからは「子ども、教職員、家庭、地域、行政の五者チームで、学校は可能性を見つけ成長することができること」に気づかされました。その意味と楽しさは、今も感じています。

授業と学級経営が大好きで、管理職になる時は「さようなら・私の教師人生」と思っていました。そうではなくて、その延長でした。

マネジメントする対象が学級から学校に変わっただけで、マネジメントしながら共に成長していく魅力は同じです。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

学校の課題解決が、子ども、家庭、地域、教職員の人生、喜び、幸せ、成長に繋がっていることが、やりがいでもあり、責任でもあり、魅力と思います。

チームでビジョンを共有して協働して、前に進めることがうまくいっている時は、みんなが主体的に動き、私の想像を超えたサプライズがたくさん起きて成果が生まれるので、そのデザインと仕組み作り、働きかけと調整、関係性を整えることなど、見えない部分がとても大事で、管理職ができること、やりがいの部分だと感じています。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

管理職は、人生で一度チャレンジしてみてもいいかなと思います。

新たな学びや出会いがありますし、教員として人生観も変わります。苦労も大変なことも無駄になりません。必ずどこかに繋がっているような経験値を得ることができるので、そのようなチャレンジも人生を豊かにしてくれると思います。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気づいていますか？

私自身は教師の仕事に夢中になりすぎて、子どもには申し訳ないと思うことばかりですけど、子育て中は限られた時間しかないの、自分の中で大切にしていかなければならないものと仕事のバランスについて、様々な子育て経験談を伝えながら、協力できたらと思っています。

特に気を付けていることは、傾聴と対話です。

相手は自分と違うので「どんなことで悩んでいるのか、どこを目指してどんなふうになりたいのか？」ということも、言葉を交わさないとわかり合えない部分があるので、心がけています。

7・ご自身が子育てをしている時に、管理職の、どのようなサポートが支えになりましたか？

子どもの具合が悪い時とかここは親が絶対にやる場面で、退勤させてそういうことをやりやすくしてくださったご配慮を、今改めて感じています。自分もそうありたいと思っています。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

根室管内も北海道全体でも女性管理職が少ない状況にありますが、多様性が求められる社会にあっては、いろんな視点の教職員や管理職がいることが強みになると思っています。その意味でも、女性管理職が増えて欲しいと思います。

[インタビュー実施月：令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。